

## 高津区おはなしアーカイブ

### ●三ツ橋 しづ江 (みつはし しづえ)さん

昭和2年生まれ 88歳

川崎市高津区上作延在住



#### ◆子どもの頃のご家族のこと

家族は両親と兄妹が10人でした。私は4人目だったかな。8畳間に布団ひいて兄妹10人みな一緒に寝てましたよ。家には4部屋あって、親たちは別の部屋でしたね。

一番上の兄は戦死しました。それまで一番上の兄は農家へ手伝いに行ってたし、二番目の兄は溝口の酒屋に奉公に行ってた。皆して働いてたよ。下の兄のほうが身体つきがガッシリしていてね、父に可愛がられてましたよ。またその兄は気に入られるのが上手だったのよ。兄妹はね、今も残っている者は皆仲がいいですよ。

当時食事は一人ずつお膳に乗ってたの。後に卓袱台になったけど。料理は、みそ汁とこうこ(漬物)。あとは煮物だの味噌漬けにしたものとか。米は供出しちゃってたから、麦三分ほどに大根だのサツマイモだの刻んで混ぜてたのよ。

#### ◆父の思い出

父は写真が好きで、よく写真館を呼んで写真を撮ってくれた。石川写真館って店で、今も溝口神社の近くにありますよ。

母方の祖父が尾山台にいて、お祭りの時なんか、尾山台まで父がリヤカー引いて連れてってくれたのよ。

そういう元気な父だったけど、終戦の年に亡くなっちゃった。父は49歳だった。

医者に麦だの粉だのを持ってって、往診に来てもらったの。

どうにも助けられないって言われたんで、その後知り合いの紹介で東京の病院にも連れてって、そのまま入院したんだけどね、ダメだった。すぐ死んじゃった。今で言うガンだったんじゃないかねえ。

父がいよいよ危ないって言われたとき、私と姉が病院にいて、私が1人で家にいた母を呼びに行ったの。東京の病院だったから溝口までは電車があったけど、その後は家まで走ったの。駒下駄履いてたのも脱いで裸足で家まで走ったの。当時、私はまだ19歳だったから夜道を1人で怖かったけど、必死で家まで走って、まだ赤ん坊だっ

た妹と母と一緒にまたトンボ帰りして病院に戻ったのよ。

昔はどこに行くのも歩くか自転車だったものね。

亡くなった父をリヤカーに乗せて連れて帰る途中、多摩川の橋のところでアメリカの兵隊に止められたの。でもリヤカー覗いて、すぐに「行け行け」って通してくれた。

弔いでは精米所で粉を挽いてもらって大釜で蕎麦を茹でて、皆に食べてもらったの。今みたいにガスなんてないから、蕎麦を茹でるのにも裏から焚き木を集めてきてさ。醤油も家で絞ったのがあったからね。近所からも手伝いに来てね。物のない時代だったから、皆この時とばかりにいっぱい食べてったよ。

父親ってのは家では天皇陛下様だったから、厳しかったですよ。父の一言で皆ビシッとしてね。食事も一番でね。でも父が早くに亡くなったから、その後は母がね、大変だったよ。

#### ◆小学校の思い出

小学校は向丘小学校でした。兄妹が多かったから、学校に行くのにいつも4人くらい一緒に通ってました。東京に親戚がいてお下がりを買っていたから、私は割と早くから洋服を着て通ってましたよ。

5年生の時、菅生の分校から生徒が来て増えたからね、1学級は男女共学で40人くらいだったかな。

言うこと聞かない子はバケツ持って立たされたりしてましたね（笑）。でも、親に言うとき余計叱られるから言わないの。その頃の子は強かったわね（笑）。

ガキ大将もいましたよ。私も後をついて回ってました（笑）。頭が良くて器量もいい人だったわね。元気な人だったけど、最近はどうしているかね。

小学校はもう140周年になりましたね。卒業して15、6歳の頃、初めてクラス会をして、ずっと今もやってるの。上作延は仲が良くてね、上作だけで集まるの。昔は上作だけでも大勢いたからねえ。皆の子どもが育って手がかからなくなってからはバス旅行なんかして、面白かったわよ。

#### ◆子どもの頃の遊び

縄跳びやゴム飛びをやってましたね。ゴム飛びの輪ゴムはね、正直屋っていう魚屋で売ってるの。それを繫いでピョンピョン飛ぶの。でも買わなくちゃならないから、輪ゴムを持ってる子に「混ぜて〜」って言って一緒に遊ぶの。皆仲良く遊んでましたよ。

お店はね、他にも神木に三茶店（さんちやみせ）っていうのがあって、一銭くらいの駄菓子屋だの、他に森田屋っていう駄菓子屋があって、そこは湧水が湧いていて、いつでも水を飲ませてくれるの。牛もそこで水を飲んで休んでたよ。そういう水飲みさせてくれるところは、あちこちにあった

わね。

男の子は竹馬や、自分で作った木の枝のパチンコで遊んでたかしら。かくれんぼもやったわね。今と違って隠れるところがいっぱいあったから（笑）。

それから陣取りだとかね。他にも庭のある家に行くと、地面に輪を描いてケンケン飛びね。でも遊んでるって言っても、子守りもしなくちゃだから、そんなに遊べなかったけどね。夏休みには絵日記の宿題が出たけど、忙しかったから果たして宿題をやったかどうか・・・覚えてないわね。

学校ではドッチボールをしてた。でも学校が終わったらすぐ家に帰って子守りだったなあ。学校に下の子を負ぶって行ったこともあったわよ。

#### ◆小学校卒業後のこと

私は小学校卒業後1年ほど家を手伝って、それから奉公に出たのよ。近くの地主さんの奥様とお嬢様のお世話をしてお仕えしました。

兄妹が多かったから、家のために奉公に出るのは当たり前だった。地主さんの子は女学校に行ったりしてたけど、私の家は地主じゃなくて小作だったからね。

男は学校に行かなくちゃいけないけど、女は学問なんかいらなくて、6年でやめさせられちゃった。

だから何にも勉強知らないのよ。野菜作りの手伝いもよくしましたよ。昔はね、現

金の収入なんてなかったからね、買い物に行くこともなかったし、保険の集金が来ても、たった1円が払えなかったりしてねえ、親も大変だったもの。

でもね、今はいい世の中になったから、昔のことを悔んだりしませんよ。こんなに丈夫な体に生んでくれた親に感謝しなきゃね。

#### ◆仕事や暮らしのこと

私らが大きくなった頃、父は養豚組合をやってたから、養豚所へ行って脂身を買ってきて鍋でラード作って、モツも買ってきて茹でて刻んでね。いい肉は買えなかったけど安いのを味噌漬けにしてたね。冷蔵庫なんてなかったからね、山に室があって、そこにに入れておくの。

昔はね、どこの家でも豚を飼ってたのよ。それがいい収入になったの。糞も畑の肥料になるし、種取りってのをやって、子豚から育てて、親豚になったら豚屋がきて買ってってくれたわけ。

鶏も飼ってたわよ。卵は売ってね、特別な物日（ものび）には家でも食べたけど、売り物だからなかなかね。

山羊も飼ってたわ。乳を使うわけ。母が体が弱くっておっぱいが出なかったからね。足りない時は、弟が上作や神木の方まで貰いに行ってたのよ。

牛はね、牛乳じゃなくて、この辺りは坂ばかりだから車を引かせて運搬用に飼って

たわ。

鶏も庭に竹囲いして放し飼いにしてたわよ。後にはケージで飼うようになったけど、昔は庭も広がったからね。

動物の世話は皆でしてました。

## ◆自然と暮らし

平瀬川やら田んぼで魚やドジョウがよく捕れたの。兄が捕まえて私はバケツ持ち

(笑)。私はドジョウが苦手な食べられなかったけど、一緒に煮た牛蒡は味が染みて美味しかった。たまにナマズも捕れて、煮たり焼いたりして食べましたよ。

果物は、禅寺丸柿ね。イチジクも植えていたからよく食べたわね。あとはニンニク。ニンニクをアルミホイルで包んで、へっつい(かまど)の燠火(おきび=炭火)で焼いて食べたわ。

実家にはおいしい湧き水があったのよ。井戸も掘ったけど水が悪くて飲めなかったわね。

田んぼには堰から用水を引いてたね。

屋根が草ぶきだから、秋のうちに茅を刈って用意しておくの。毎年葺き替えるわけじゃないから、隣近所で茅を貸しあってたわ。

風呂は五右衛門風呂だった。夏にはね、外へ出しておいて水を温めてたのよ。

## ◆戦争の思い出

小学校を出た後は奉公に行ったり、家の

手伝いしたりで、戦争のことはあんまり覚えてないけどね、実家が山の間であって防空壕が横にあったの。それで3月10日の空襲の時そっちに避難したらさ、防空壕に入ってもやられちゃったって、小母さんたちが逃げ出してきたのよ。そうしたら防空壕に入るのも怖くなって、裏の竹藪に逃げたの。

高射砲の破裂したのが降ってきて竹に当たってカチンカチンって音がしてね。空の上のほう見るとB29が飛んできて焼夷弾を落とすのが見えるのよ。火がついたまま落っこちてくるの。

山の下の方の家や畑は、アッという間にみんな燃えちゃった。怖かったよ！

終戦の時、天皇陛下の放送があったでしょう。それを聞いて、国民に「がんばれ」って言うっておられるのかと思ってたんだけど、後になって負けたんだって父に知らされたの。

そうしたら、それまで掛けていた神武天皇の掛け軸をマッカーサー元帥の掛け軸にしろって言われたの。マッカーサー元帥のおかげで、こんないい世の中になったんだからって。

でもねえ、ロシアじゃなくてアメリカに負けたんでよかったよ。農地解放で小作が地主になれたんだもの。それまでは米を作ってもリヤカー押して地主のところへ納めなきゃなんなかったんだもの。自分の家で食べるものなんてろくにありやしなかった。

でもね、それからも供出ってのがあったからね、芋なんか取れなくても決められた数量は供出しなくちゃならないの。供出は厳しく言われてたからね、農家だからって裕福に食べたり飲んだりはできなかつたんですよ。

お米は供出に出して配給でもらうの。着るものも配給、お金も配給。なんでも配給で暮らしてたのよ。

#### ◆結婚のこと

結婚したのは24歳か25歳の時、戦争はもう終わってましたよ。

子供は2人です。女1人男1人でね、娘は元石川の植木屋に嫁ぎました。長男と一緒に住んでるの。いいお嫁さんが来てくれたから、ありがたいわ。

私はお見合いなんてしてないわよ。知らない間に親が決めてたもんでね、結婚式の晩になって、夫も「俺、知らなかった」なんて言ってたですよ（笑）。

仲人が知っている人で、決めてくれたの。主人は学問をしていない私と違って頭のいい人だった。お見合いなんてしなくっても、ちゃんと連れ添ってくれて。

でも体が弱くって結核だったから。結核だのカリエスだと10年患っちゃうもの。

だから私がリヤカーを引っぱって夢中で働いたね。それで、こんな風に腰が曲っちゃったのよ。

家はお茶を育てて、摘んだのをお茶工場

に納めてたのよ。主人の兄妹も7、8人いて弟や妹がよく手伝ってくれたの。

主人は大正12年生まれ。上作延の青年団に入っていたから、終戦後、青年団のクラブに集まって練習して、祭りの時には素人演芸なんかやってたの。クラブの時の写真も撮ったんだけど、写真屋にお金を払う段になって親に怒られちゃった（笑）。その頃は銀行が封鎖になってたもんでね。

#### ◆行事など

正月の雑煮はね、その家によって違うけど、家のはのし餅を四角く切った餅を焼いて、あっさり小松菜だけで作るの。実家のはもっといろいろ入ってたけどね。

あとは煮物をいっぱいこしらえてね。

お重に詰めたりはしないよ。大皿に盛ったりしてね。

三が日は刃物を使わないとか、そんな習慣も全然なかったわよ（笑）。

子どもの頃は無尽講ってのがあったわね。無尽講に当たった家は、普段できない普請なんかをすることができたんだ。

念仏講は今でもやってるわよ。お喋りできるから楽しみだったんだ。昔は毎月やってたけど、今は年に2回だね。

地鎮講とか、庚申待（こうしんまち）も今もやってるわよ。どっちも1年に1回かな。これは男が出ていくのね。

テレビは、皇太子陛下のご成婚を見たり、プロレスもよく見たわね。それから国道が

できたり、新幹線が通って、オリンピックがあつて、いろんなことがありました。

みんな裕福になって、おいしいものも食べられて、もったいないことだよねえ。“しあわせ”って言わなくちゃいけないのかもしれないけれど、やっぱり“もったいない”わ（笑）。

歳とった今、こういういい世の中で過ごせてありがたいです。

(平成27年11月5日実施)